

[2] SDGs時代における企業による地域創生の現状と可能性



深田 裕康

株式会社ローソン事業サポート本部参事

本日のテーマは、SDGs時代における企業による地域創生の現状と可能性です。今朝の日経新聞に、「日経SDGs調査」が発表されました。現代における企業の通信簿、いわゆる偏差値という形でランク付けされています。私どもも取り組みをしているつもりですが、この評価でいくと、星5つが最高のランクで、私どもは星3つです。偏差値53.7です。4つの指標と私どもへのアンケート、もしくは公表している情報をもとにランク付けしたようです。これを真摯に受け止め、今後も取り組みを進めていきたいと思えます。

私どもローソンは全国47都道府県に1万5,000店舗弱の店舗を出店しているコンビニエンスストアです。本日のキーワードの「地方創生」について、加盟店とともに取り組んでいる地方自治体と連携した地域貢献活動の話をさせていただきます。

ローソンの設立は1975年で、大阪府豊中市の桜塚店が1号店です。現在は国内約1万5,000店、海外2,500店舗弱あります。「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします」という企業理念の下、加盟店とともに日々営業しています。まず、ローソンがSDGsに取り組む背

ローソンがSDGsに取り組む背景

LAWSON

マチを幸せにするためには、増大する社会課題に真剣に取り組むことが求められており、それがSDGsにつながります。

気候変動

労働人口の減少

超高齢化社会

大規模自然災害

食品ロス

プラスチック問題

地域社会の衰退

健康不安

Copyright (c) 2019 Lawson, Inc. All rights reserved.

3

景についてお話しします。2005年にCSR推進ステーションというチームができました。そのときCSR、企業の社会的責任とは何なのか、現代における社会課題にはどのようなものがあるのか考えました。2005年、今から15年前ですが、現在と同じような社会課題がすでにありました。レベル感は違いますが、気候変動、労働人口の減少、超高齢化、プラスチック問題、大規模自然災害、食品ロスの課題は当時からあり、今も解決されていません。このような課題に取り組むことがSDGsの推進につながると思います。

SDGsに取り組むにあたり、私どもは改めて本年度3月にSDGs委員会を発足させ、私は今そこで事務局をしており、改めて環境、社会、経済における課題の洗い出し（下図）をしています。ローソンにとってのインパクト、社会にとってのインパクトのマトリックスを立て、私たちがやってきたことはどうだったかの確認をしています。囲っているところ（下図参照）は、都市あるいは地方で起こっている課題であると認識しています。社会インフラとしてコンビニエンスストアを利用いただいています、その視点で私どもの取り組みを進めています。

私どもは47都道府県に1万5,000弱の店舗があると申し上げました。私どものお店は地域のお客様ならびに地方自治体の皆さま方との連携は欠かせないと思っており、2003年8月、和歌山県と小売流通企業として初めて地方自治体と包括協定を結びました。私は当時からこのような関係の仕事をしていたこともあり、和歌山県の活性化、経済の発展に協力するために、この包括協定の推進・連携を窓口として行いました。

ローソンはいま45道府県、19市町村、ですから全国64自治体と包括協定を結んでいます。それらは3つに分類できます。それぞれの自治体が抱える課題、地域における悩み事、首長



最新事例（北海道函館市）

LAWSON

函館市と「協働のまちづくりに関する協定書」締結（2019年11月22日）
地場食材を活かした商品の地産地消や販路開拓、観光PRから交通安全、防災、高齢者・障害者支援、健康診断やがん検診の奨励



「冷たい かぼちゃクリームパン」
(函館産かぼちゃペースト入りクリーム)

11/26（火）～
北海道内のローソンで
販売



「明太子クリームパスタ」
(函館タナベ食品の明太子使用)



「ホイップデニッシュ」
(函館美鈴珈琲使用)

地産食材を使用した商品やご当地にゆかりのある食材を使ったメニューの発売などを通じた、地域の活性化に向けた取り組みをより一層進めてまいります！

Copyright (c) 2019 Lawson, Inc. All rights reserved.

6

のmanifestoにより地域の取り組みは変わってきます。地域の課題に応じ、私どもが今できることは何なのかを一緒に考えながら、取り組みを進めてきています。

行政からの協力の要請は、地域と取り組んだ商品の発売や、1日約1,100万人のご来店頂いているお客さまに対する行政からのメッセージ・PR・広報といったものが非常に多いです。

上図は、自治体との包括協定に関する最新事例です。函館の地場食材、特に水産物を含めた食材を生かした商品の地産地消と販路開拓、観光PRに協力してほしいというお話をいただき、先月11月22日に北海道函館市と「協働のまちづくりに関する協定書」を締結しました。11月26日からは地元の食材を活用したクリームパン、パスタ、デザートを販売して地域活性化に取り組み、地産地消を進めています。

函館市との取り組みは、函館市との協定書締結以前に締結されていた北海道との包括協定を元に2011年に函館市のアンテナショップが開設されたことに始まりました。有楽町や新橋で各地方自治体のアンテナショップが一つの建物の中で展開されていることはみなさん良くご存じのことと思いますが、一般的に各自治体が専用の店舗を持つことは財政的に非常に厳しく、当時函館市からも、函館の商品の紹介や観光のPRの為に、私どもの店舗の一角をアンテナショップにしてもらえないかという話がありました。それがきっかけとなり、2011年に東京駅近くのローソン京橋駅前店の入口近くにコーナーを設け、函館市産の商品の販売をはじめました。のちに、もう少し住宅地に近いロケーションで函館市の魅力を伝えたいというお話を頂き、住宅地の近い立地のローソン世田谷区奥沢5丁目店の一角でもアンテナショップを展開しています。現在ローソンでは函館市の他に、埼玉県、千葉県、徳島県、熊本県を加えた合計5自治体のアンテナショップ全9店舗を展開しています。

兵庫県尼崎市と「尼崎市民の健康づくりに関する協定」を締結
店舗駐車場でコンビニ健診、地域住民の健康な生活をサポートします



検査は、質問項目への回答、身体計測、血液検査、血圧測定、尿検査、そして医師の診察など



店舗の近くの住民の方から要請があり、健康セミナーでの講演も実施しています。マチの皆さんがいつまでも健康でいられるように！

また、地域により様々な課題があります。兵庫県の尼崎市とは「尼崎市民の健康づくりに関する協定」を締結しています。健康診断の受診率がなかなか上がらないので、コンビニの駐車場を活用して健診をやってもらえないかという話があり、駐車場に健診車をお持ちいただき、そこで健康診断を行っています。これも全国で初めてです。そして、店舗近くの住民の方からの要請もあり、健康セミナーなどもやっています。

買い物難民という言葉が聞かれることがあると思います。私どもはリアルな店舗を構え、お客さまにご来店いただく商売が基本ですが、この事例（次頁上図）は東京都青梅市さんとの「買い物環境向上に対する連携協定」に基づき移動販売を行っている事例となります。青梅市の中では、買い物に不自由をしている住民がたくさんいらっしゃるの、そういった地域で移動販売を実施して、住民の買い物に協力してくれないかという話があり、そういった地域での移動販売も進めています。

さらに、毛色の少し違うことですが、私どもは、福島県のマイボトル・マイカップ推進キャンペーンに参加しています。プラスチック問題などがあるので使い捨て容器のごみを減らしたい、ライフスタイルの転換をしたいということで協力しています。

私どもは「MACHI café」というコーヒーサービスを提供していますが、マイボトル・マイカップをご利用いただくと10円引きで商品を提供する取り組みを進めています。

私どもの社会貢献活動の柱は「子どもと緑」です。その一つの事例として学校緑化モデル事業があります。ローソン緑の募金として、1992年から店頭募金、本部寄付金を合わせ、森林ボランティアの支援ならびに地域の学校緑化整備を行っています。

東京都青梅市との「買い物環境向上に対する連携協定」に基づき、10ヶ所で移動販売しています



青梅東青梅四丁目店



中山間地域の成木地区

日々の買い物に不便を感じている方々の、買い物環境の向上に貢献したい。皆さんが幸せになるための挑戦を続けます！

こちら（下図）は直近の事例ですが、品川区立第三日野小学校「希望の森事業」の記念式典です。こちらにいるのは弊社の社長の竹増です。トップも地元の学校の式典に参加しながら、子どもたちと一緒に社会貢献活動に取り組んでいます。こちらは全国小・中学校、特別支援学校700校程度、年間60校から70校を支援しています。

JFA（日本サッカー協会）も社会貢献活動をされています。JFAこころのプロジェクト「夢の教室」です。プロのサッカー選手だけでなく、水泳、バドミントン、野球、陸上など、いろいろなスポーツ選手たちが学校の授業の中で教壇に立ち、夢をもつことの素晴らしさや、そ

ローソン緑の募金 学校緑化モデル事業
東京都品川区立第三日野小学校「希望の森事業」完成式典



第1,500回事業

品川区立第三日野小学校
2019年10月7日（月）

全国の小・中学校や特別支援学校などで、植樹や木の手入れ、ビオトープづくりなどを通じて子どもたちが自然に触れる機会を増やし、健やかな成長の一助としています！

子どもの教育支援 LAWSON

子どもたちが健やかに育つ環境をつくるお手伝いの一つとして、京都市、仙台市の「スチューデントシティ」※にローソンの体験店舗を開設しています



京都市スチューデントシティ
2007年1月、京都市教育委員会によって、「京都まなびの街 生き方研究館」に開設



仙台スチューデントシティ
2014年8月、東日本大震災からの復興支援の一環でオープン。仙台市教育委員会と（公社）ジュニア・アチーブメント日本によって「仙台子ども体験プラザ」に開設

社会と自分との関わり、経済の仕組み、お金とは何か、仕事とは何かなどの社会的自立力を育む教育プログラム！

※スチューデントシティは、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本（世界最大の経済教育団体であるジュニア・アチーブメントの日本本部）の登録商標です。
Copyright (c) 2019 Lawson, Inc. All rights reserved. 13

れに向かって努力することの大切さなどを子どもたちに伝えています。今年の4月からローソンはこのJFAこころのプロジェクト「夢の教室」を支援しています。9月に北九州で第1回が始まり、年間10～20回、こういった子どもたちに夢をもつ素晴らしさを伝える活動を支援していきます。

次は子どもの教育支援について（上図）です。京都市と仙台市にスチューデントシティという疑似体験の施設があります。その中の街並み形成の一つとして、私たちの体験店舗を開設しています。小学校5年生、6年生が社会と自分との関わり、経済の仕組みを勉強した後、実際にお店に入り、店長、店員、お客さまの役割をしながら、自分たちが日頃利用しているローソンの裏側を体験してもらっています。これも協定を結んで取り組みをしているところ です。

私どもは2019年度から「マチの健康ステーション」から「マチのほっとステーション」へスローガンを切り替え、事業方針として、3つのお約束をしています。「圧倒的なおいしさ」、「人への優しさ」、「マチへの優しさ」です。SDGsの取り組みもこれらの事業方針に合わせて展開しています。

皆さま方のお手元のSDGsハンドブックの中でローソンの取り組みを紹介しています。食品ロスの削減、プラスチック削減、CO₂排出量削減です。この3つを2030年の目標（KPI）として定めています。かなり挑戦的な目標ではありますが、食品ロスの半減、プラスチック製レジ袋の100%削減、CO₂排出量30%削減。加えて「Lawson Blue Challenge 2050！」

（次頁図）。2050年のあるべき姿として食品ロス100%削減、プラスチック削減については環境配慮型素材100%、CO₂排出量においても100%削減を目指して取り組みを進めていき

たいと思います。

最後になりますが、ローソンは「私たちは「みんなと暮らすマチ」を幸せにします」という企業理念のもと、加盟店や、お客さまとともに社会課題を解決しながら、SDGsの実現に向け活動を進めています。もしアイデアがありましたら、ぜひとも私どもにお教えいただければと思います。ご清聴ありがとうございました。

SDGs 2030年目標 (KPI) LAWSON

【食品ロス削減】 2 飢餓をゼロに 12 持続可能な消費のあり方

消費期限の近い商品 大量仕入れ

お客様もうれしい
ポイント還元
お財布にやさしい

子供たちも笑顔
寄付
子供たちを支援

Another Choice

食品ロス削減
地球もうれしい

お客様と一緒に食品ロスの削減と社会貢献を実現 (アナザーチョイス)

2018年度 対比 50% 削減

【プラスチック削減】 12 持続可能な消費のあり方 14 海の豊かさを守ろう

容器包装のプラスチック削減

アイスコーヒーを紙カップで提供
ストローも不要に

ナチュラルローソンのレジ袋にサトウキビを原料としたポリエチレンを一部使用

2017年度 対比 30% 削減

2017年度 対比 100% 削減

【CO₂排出量削減】 7 気候変動に具体的な対策を 13 気候変動に具体的な対策を

1店舗当たりのCO₂排出量

電気使用量の少ない要冷機器等、省エネ効果の高い機器の導入を実施

2013年度 対比 30% 削減

社会情勢に鑑み、
環境に関わる目標
(KPI) を設定

Copyright (c) 2019 Lawson, Inc. All rights reserved. 16

あるべき姿2050「目標 (KPI)」 LAWSON

「Lawson Blue Challenge 2050！」
～ “青い地球”を維持する為に！ ～

課題	2030年KPI	2050年KPI (あるべき姿)
● 食品ロス削減	● 50%削減	● 100%削減
● プラスチック削減 (容器包装プラ削減)	● 30%削減 ※オリジナル商品容器・包装は 環境配慮型素材 50%使用	※オリジナル商品容器・包装は 環境配慮型素材 ● 100%使用
● プラスチック削減 ■ レジ袋削減	● プラスチック製レジ袋 100%削減	---
● CO ₂ 排出量削減	● 30%削減	● 100%削減

※目標は社会環境変化に応じて見直しを行います。 17

Copyright (c) 2019 Lawson, Inc. All rights reserved.